

二〇一八年九月一日（ウエブ句会…参加者二三名）

穂芒を左右に靡かせドライブす	あさこ
血止草城壁覆ひ尽くすと	明日香
農小屋の声はラジオや葛の花	うつき
バス停のベンチへ伸びる葛の蔓	こすもす
大花野パラグライダー飛びたちぬ	さつき
ここもまた古戦場なり芒原	更紗
ドリーネの底ひを埋む芒かな	三刀
羊群に似たる岩間の草紅葉	せいじ
八千草の乱れ咲きなる扇状地	たか子
コスモスの花野を分けて一両車	智恵子
ねこじやらし思ひ思ひにスウイングす	なおこ
鉄道草高架の脇の廃線路	なつき
暦日の妹背の句碑へ萩の雨	菜々
桜蓼なんと可愛と屈み見る	はく子
極楽や風に吹かれて花野道	宏虎
摩滅して読めぬ石標草の花	ぼんこ

野点席裳裾を揺らす萩の風	満天
芒原ラジコン飛行機着陸す	やよい
崖を打つ波の飛沫や葛の花	よし女
捨畑の畝覆ひたる千草かな	よう子
湿原の水路に沿ひし花野径	わかば

吟行句会みのる選

二〇一八年九月一日（ウエブ句会…参加者二三名）